

皆伐跡地調査報告書

平成 26 年 2 月

郡上市役所農林水産部林務課

<目次>

- 1. 調査の目的**
- 2. 調査の概要**
- 3. 調査の結果**
- 4. 特徴的な調査地の紹介**

(資料)

伐採跡地調査整理簿

1. 調査の目的

郡上市森林づくり推進会議において皆伐施業と造林未済地対策を検討するにあたり、郡上市内の皆伐の現状や皆伐跡地の植生回復状況を把握するため昨年に引き続き調査を実施した。

2. 調査の概要

(1) 調査方法

調査は次の方法により実施した。

① 【選定】

昨年調査した中から 8 箇所、平成 24 年度の皆伐地から 3 箇所の計 11 箇所を選定し調査を行った。

② 【現場調査】

専門知識を有する郡上農林事務所林業普及指導員に同行願い指導のもと現場調査を実施した。

③ 【調査方法】

郡上市森林整備計画に基づき、伐採跡地を見渡し標準的な場所を選定し、2m×10m のプロットを作成、それを A～E の 5 区画 (2m×2m) に区分し、それぞれプロット内に生えている木本類の樹種、本数、樹高を測定。伐採跡地の状況からその他の調査項目についても調査し、更新状況を判断



④ 【記録】

調査後は箇所ごとに更新調査記録を作成しに、写真と共に整理した。

更新調査記録簿

(調査 No.)

基本情報

森林の所在		林小班	
伐採年度		伐採面積	
伐採樹種		更新方法	植栽 ・ 天然更新

現況

崩壊箇所	有 ・ 無
土砂流出危険性	有 ・ 無
植栽木生育	良好 ・ 普通 ・ 悪い ()
ササの侵入	有 (高・中・低) ・ 無
シダ類の侵入	有 (高・中・低) ・ 無
シカ食害	有 (高・中・低) ・ 無
主な競合植物 (樹高)	

更新調査

調査区	2m×10m (内に2m×2mを5プロット設定)	
更新樹種	50cm 未満 樹種・樹高	計
	50cm 以上 樹種・樹高	計

更新判定・特記事項

立木度	
更新判定	適 ・ 否 ()
特記事項	

調査

調査年月日	平成 年 月 日	調査者名	
-------	----------	------	--

(2) 調査期間

調査期間 平成 25 年 9 月～11 月の 3 ヶ月間

調査人数 林務課職員 5 人 郡上農林事務所林業普及指導員 2 人
計 7 人

調査日	調査箇所	調査人数
9 月 9 日	大和町小間見字白石	4
9 月 9 日	明宝奥住字栃本	4
9 月 17 日	白鳥町為真字曾部知	4
9 月 17 日	白鳥町石徹白字高畑山	4
9 月 17 日	白鳥町石徹白字上八平	4
10 月 1 日	高鷲町鷲見字鷲ヶ嶽	4
10 月 1 日	高鷲町鷲見笠屋作 枇杷谷	4
10 月 1 日	大和町栗巢字金山	4
11 月 18 日	八幡町市島字下中根	3
11 月 18 日	明宝寒水深谷	4
11 月 18 日	和良町宮代字田平	4

(3) 調査箇所

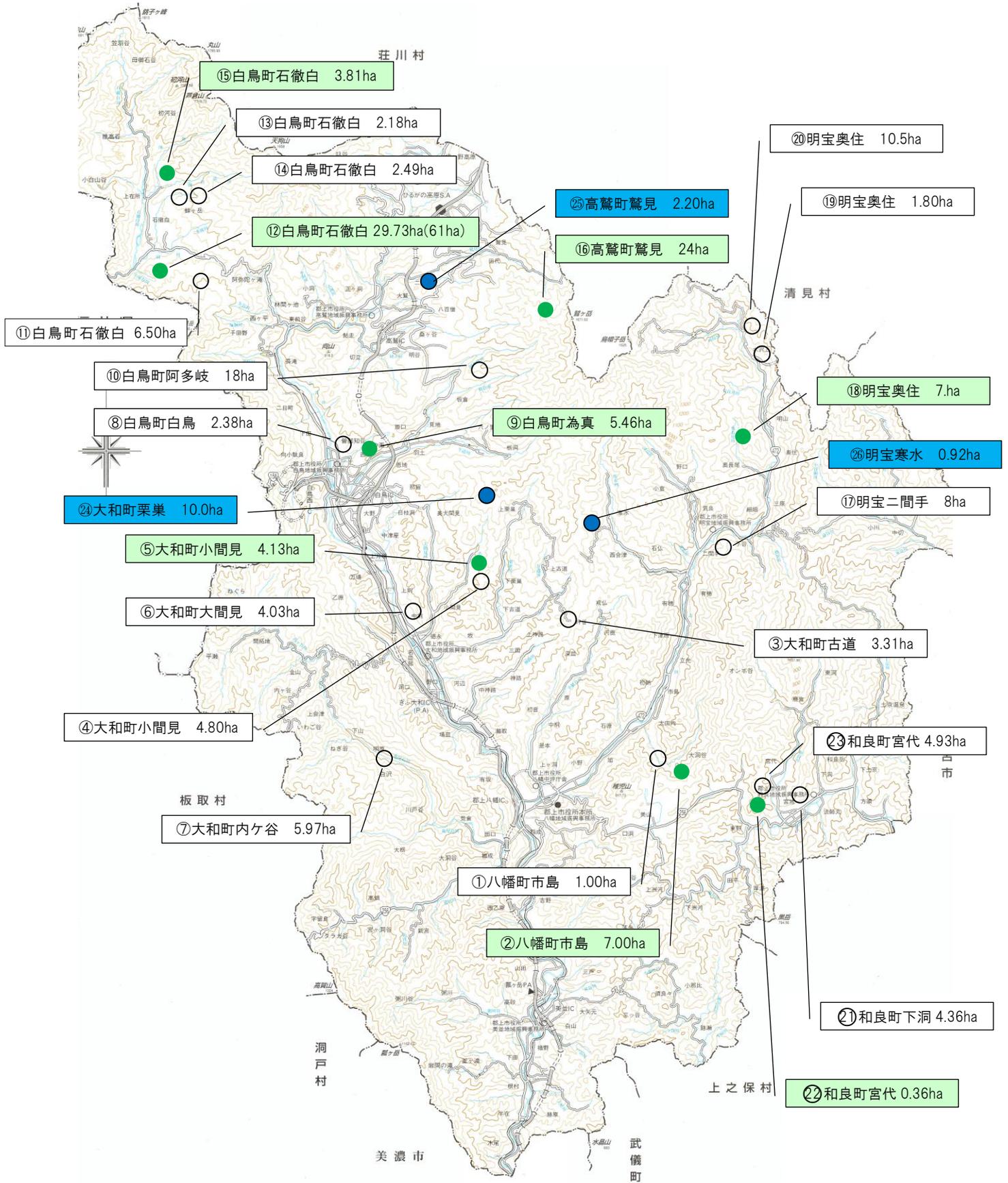
市内 6 地域、11 箇所において調査を実施した。

地域	番号	調査箇所	伐採年度	伐採面積 (ha)	伐採種 伐採率 (%)	伐採樹種	伐採 齢
八幡	1	②八幡町市島下中根	H17	7.00	皆伐(100)	スギ	50
大和	2	⑤大和町小間見白石	H20	4.13	皆伐(100)	スギ・ヒノキ、広	48・62
	3	④大和町栗巢金山	H24	10.00	皆伐(100)	スギ・広	50・56
白鳥	4	⑨白鳥町為真曾部地	H24	5.46	皆伐(100)	スギ・ヒノキ	70
	5	⑫白鳥町石徹白高畑山	H20	29.73	皆伐(100)	スギ・ヒノキ 広	53～98
	6	⑮白鳥町石徹白上八平	H20	3.81	皆伐(100)	スギ	40
高鷲	7	⑩高鷲町鷲見鷲ヶ嶽	H7	24.0	皆伐(100)	スギ	50
	8	⑮高鷲町鷲見笠屋作 枇杷谷	H24	2.20	皆伐(100)	スギ	60
明宝	9	⑱明宝奥住栃本	H22	7.00	皆伐(100)	スギ	55
	10	⑳明宝寒水深谷	H24	0.92	皆伐(100)	スギ	53
和良	11	㉒和良町宮代沢田平	H21	0.36	皆伐(100)	スギ・ヒノキ 広	46・ 59・74

(4) 調査個所一覧

地域	番号	調査箇所	伐採年度	伐採面積(ha)	伐採種 伐採率(%)	伐採樹種	伐採齢
八幡	①	八幡町市島二ノ瀬	H17	1.00	皆伐(100)	スギ	46
	②	八幡町市島下中根	H17	7.00	皆伐(100)	スギ	50
大和	③	大和町古道長野山	H23	3.31	皆伐(100)	広葉樹	56
	④	大和町小間見和那手	H20	4.80	皆伐(100)	広葉樹	60～80
	⑤	大和町小間見白石	H20	4.13	皆伐(100)	スギ・ヒノキ、広	48・62
	⑥	大和町大間見元夕用	H21	4.03	択伐(80)	スギ・マツ 広	40～60
	⑦	大和町内ヶ谷上会津	H20	5.97	皆伐(100)	広葉樹	54
白鳥	⑧	白鳥町白鳥立多羅	H22	2.38	皆伐(80)	スギ・ヒノキ	80
	⑨	白鳥町為真曾部地	H24	5.46	皆伐(100)	スギ・ヒノキ	70
	⑩	白鳥町阿多岐兎猪島	H22	18.00	皆伐(100)	広葉樹	79・82
	⑪	白鳥町石徹白檜山	H21	6.50	択伐(75)	広葉樹	60～80
	⑫	白鳥町石徹白高畑山	H20	29.73	皆伐(100)	スギ・ヒノキ 広	53～98
	⑬	白鳥町石徹白箕輪山	H19	2.18	皆伐(100)	スギ	47～51
	⑭	白鳥町石徹白猿ヶ洞	H21	2.49	皆伐(100)	広葉樹	50～73
	⑮	白鳥町石徹白上八平	H20	3.81	皆伐(100)	スギ	40
高鷲	⑯	高鷲町鷲見鷲ヶ嶽	H7	24.0	皆伐(100)	スギ	50
明宝	⑰	明宝二間手栃尾山	H21	7.00	皆伐(100)	広葉樹	56
	⑱	明宝奥住栃本	H22	7.00	皆伐(100)	スギ	55
	⑳	明宝奥住水沢上	H21	1.80	皆伐(100)	スギ	40
		明宝奥住水沢上	H23	7.00	皆伐(90)	ソノタ広	60
和良	㉑	和良町下洞真那洞	H20	4.36	皆伐(100)	スギ・ヒノキ 広	48～81
	㉒	和良町宮代沢田平	H21	0.36	皆伐(100)	スギ・ヒノキ 広	46・ 59・74
	㉓	和良町宮代奥羽根洞	H21	4.93	間伐(50)	スギ・ヒノキ	50
大和	㉔	大和町栗巢金山	H24	10.00	皆伐(100)	スギ・広	50・56
高鷲	㉕	高鷲町鷲見笠屋作 枇杷谷	H24	2.20	皆伐(100)	スギ	60
明宝	㉖	明宝寒水深谷	H24	0.92	皆伐(100)	スギ	53

調査箇所位置図



3. 調査の結果

伐採跡地の現地調査の結果は、別紙「調査箇所一覧」

5. 調査結果まとめ

- 本年度の調査は、伐採跡地の現況を調査把握し更新の適否を判定した。
なお、本年度の調査個所は、全箇所、現状天然更新でした。
その結果を下表にまとめました。

区分	個所数	更新完了	未更新	備考
6年以上経過	2	1	1	
2～5年経過	5	3	2	
0～1年経過	4	2	2	更新が見込まれる
計	11	6	5	

表からは更新と未更新が半分ずつであるが、備考に示したように伐採から1年経過の個所については更新が見込まれ、それを加味すると7割程度が更新することになります。

未更新の個所の森林再生の阻害要因は、1. シカの食害 1. 笹の侵入 1. 母樹、保残木がない でした。

昨年と同様の要因であり、3つの要因に対策を講じれば森林再生の可能性は大きくなると考えられます。

シカの食害は、大変深刻であると昨年度も指摘しています。今年度の調査においても、一部カモシカの食害と思われるものありましたが、食害は多くの調査個所で確認されています。

今後ますますシカが増加すると予想され、深刻な問題となっています。

明宝においては、広範囲にわたるシカの皮剥ぎも確認されており森林再生の阻害要因だけでなく、森林そのものに害を与える存在となっています。

笹の侵入により伐採地を笹が覆ってしまった場合、森林再生は困難と判断しており、実際、NO.16 高鷲町鷲見字鷲ヶ嶽は、伐採から15年以上経過していますが、今なお笹が伐採地を覆っている状況です。しかし今年度の調査において、笹の下に広葉樹が確認でき、NO.12 白鳥町石徹白字高畑山では、笹が覆っていたものの樹木が成長し、森林再生がなされていた事例も確認できました。今後、NO.16 について、経過観察を行い、笹が侵入した場合の対策に活かされればと思います。

人工林において間伐がされていなかったり、大径木林では下層植生が乏しい期間が長かったため、木本類の種子も乏しいと思われ、特に大規模な皆伐地では、森林再生の気配は見られませんでした。対策として母樹・保残木が必要と考えられます。

■ 特徴的な調査地の紹介

【シカの食害】

和良町宮代(NO. 22)では伐採面積も大きくなく、保残木も多く条件的に問題はないと思われる。また、笹の侵入はあるもののプロット調査では、高木性の稚樹も確認できたが、更新できていない状態である。周辺はシカの食害が多くみられ、笹にも食害が確認された。現在、シカが食べないもしくは食害を受けていないものが生えている状態であった。

また、皆伐地の調査ではないが、明宝においては、シカの皮剥ぎの被害の報告もある。



和良町宮代 伐採地遠景



杉の稚樹



シカの食害をうけた笹



シカの皮剥ぎ（明宝）

【笹の侵入】

高鷲町鷲見(N0. 16)は、24ha の皆伐地で、伐採後 16 年を経過しているが、昨年同様全面ササが覆っている状況である。しかし、笹の下には広葉樹が生えている。



伐採から 16 年を経過した皆伐地の遠景 高鷲町鷲見



被覆した笹

白鳥町石徹石(N0. 12)は、笹が覆っていたと思われるが、樹木が成長し森林が再生。笹は下層に生えているものの減退していた。これは、人工林であるもののスギ、ヒノキの他に広葉樹も生えていたことが要因と思われる。



高木性の樹種が茂る



下層に植生する笹

【母樹・保残木がない】

明宝奥住(N018)は、昨年同様草本類のみが茂るだけで高木性の樹種は確認できなかった。調査の時期が去年は11月、今年は9月ということもあるが、草本類については昨年より多く茂っている状態であった。

また、土壌はいいものの、伐採地がスギの大径木林であり7haと大きな面積であることから、伐採地の大部分が長年下層植生がほぼない状態であったと予想され、高木性の種子が存在しないと思われる。伐採地の周辺部には広葉樹もみられるので回復も期待できるものの相当な年月を要すると思われる。

H24.11月



H25.9月



尾根筋及び林内に母樹が残されていない皆伐地

大径木の切り株



【その他】

昨年もあった重機で林地を踏みつけたところは植生の回復が困難と思われた。マツの稚樹が確認されたが、成長できるか観察していく必要がある。



重機が踏みつけた作業道



作業道に実生した松の稚樹